

広報よろん

9月号
2014 VOL. 299

TOWN YORON OFFICIAL INFORMATION 2014. 9 VOL. 299



第55回大島地区大会カヌー競技男女優勝

◆カヌー競技 地元開催で
男女W優勝！

7月12日(土)と13日(日)、第55回大島地区大会カヌー競技が与論町茶花海岸で開催された。開会式は与論町女子チームの竹村佐知子選手のユーモア溢れる選手宣誓で始まった。

初日の予選、与論女子チームは公式戦初出場ながら、大混戦のレースを1位のタイムで通過すると、2日目の準決勝も4チーム中1位の好タイムを出した。男子チームも準決勝を6チーム中1位のタイムで決勝レースへ進んだ。そして迎えた決勝ではなんと女子・男子チームとも1位でゴール。地元での初開催で、見事男女アベック優勝を果たした。

会場に駆けつけていただいた町民の大きな声援が力になった。※ただいま9月21日に鹿児島市の伊佐市で開催される県民体育大会に向けて、猛練習に励んでいます。応援よろしく願います。

カヌー競技連盟 町岡安博





平成26年度まちづくり懇談会

町民のみならず、町政に対する意見や要望を伺う、まちづくり懇談会が6月13日、与論町地域福祉センターで開催されました。まちづくり懇談会では、町長及び教育長から町政と町教育行政について概要説明がなされました。また、昨年のまちづくり懇談会を振り返って担当課長から説明の後、参加者との意見交換が行われました。ここで、主なものを紹介します。

Q①農地転用を行い住宅を建てるのは大変難しいと聞いたが実際はどうなのか。

A 産業振興課長補佐…農地転用には様々な法律と規制があるので、詳しくは役場産業振興課または農業委員会の方に相談していただきたい。

Q②歯科医院が一軒しかないために島外の歯科医院に通っているという事例がある。子どもを産むのも育てるのも大変という状態では若者定住には結びつかないのではな

いか。

A 総務企画課長…一つの歯科医院が厳しい状況の中で頑張っていることは承知している。行政の立場としては歯科医院を誘致することは難しいが、今後の課題としたい。

Q③会合等で飲めない人には無理に飲ませない、過度の飲酒はせず適量を心がけることで若者が定住しやすい環境づくりに繋がるのではないかと。

A 総務企画課長…行政の立場で飲酒に対して規制するのは難しいのが現状である。民間レベルで活動するのは問題ないため、個人の努力によって進めていただくしかない。

Q④停電時のひかり電話による通信途絶について、昨年、強くしなやかな国民生活の実現を図るため国土強靱化基本法が成立し、評価機関として国土強靱化推進本部が設置された。この国土強靱化推進本部では、停電時にひかり電話が使えない事態を回避すべき

起きてはならない最悪の事態と評価している。電力供給停止等による情報通信の麻痺・長期停止はトップレベルの回避すべき事態であり、台風がくるたびに町民は最悪の事態に常にさらされていることを理解していただきたい。電柱の地下埋設というはるか先の話ではなく、国土強靱化基本法という武器ができたのでこれを使い、ZICに協力要請していきながら、即実行性のある対策をしていただきたい。

A 総務企画課長…国の方で進めている国土強靱化基本法に、ひかり電話の補修関係、改修関係が対象になるのか情報を収集し、今後対応を検討していきたい。

Q⑤(本年度の施政方針)分野ごとの具体的施策・事業等をホームページに掲載していただきたい。昨年度の事業をどう評価し、本年度の計画ができたのか流れを教えてください。

A 総務企画課長…施政方針の評価・検証については、決算書を見て判断していただければと思う。

Q⑥与論町には奨学金制度はあるが返済型である。与論の経済状況、日本の労働形態を考慮すると「借金」の形態の援助が必ずしも有益とは思えず、返済不要の給付型援助をすることが肝要だと思われる。返済義務のない給付型奨学金制度を導入していただきたい。原資については島内外の人・法人に寄付(ふるさと納税)をしていただき全額就学支援に充て、後々社会人になった際に可能な範囲でふるさと納税してもらおうのがよいのではないかと。

A 教育長…返済義務があるという点は大きく異なるが現行の奨学金の拡大を検討している。予算の範囲内で奨学金を借りている方からしっかり返済してもらいながら、受給者数の拡大を行っていききたい。





平成26年度まちづくり懇談会

Q⑦ 新清掃センターの説明会中、排熱の利用を考えているかと質問をしたところ与論町の場合プラントが小さく向かないという回答であった。新しい技術によって可能という事例もあるので排熱を回収しエネルギーを再利用するような効率的なごみ焼却システムにしていきたい。

A 環境課長…報告書において与論町の焼却施設では難しいと書かれてあるが、今後の技術革新に伴い可能性が全くないということではない。今後の施設整備、実施計画策定の段階で検討し進めていきたい。

Q⑧ 奄振事業によって島民の航空運賃が安くなったが、観光振興の面から考えると観光客の航空運賃割引がないと観光振興には結びつかないと思う。ぜひ他の市町村と連携しながら働きかけていきたい。

A 町長…5年後の地域活性化を考え、島民は従来の割引を

行い、残りの予算で観光客に対する割引を行うべきと主張してきたが、各庁の調整のなかでやむをえなく現在のよる島民のみを対象としたシステムになった。

Q⑨ 観光案内板が逆を向いていてわかりにくいという観光客の意見をよく耳にする。お客さんの立場に立った案内板設置を心がけていただき、逆向きの案内板は直していただきたい。現在、島中に案内板があるにも関わらず道に迷ったというお客さんも多くいるので、例えば、かめやの十字路に台風でも倒れない案内板があれば大変いいと思う。

A 商工観光課長…見る側の気持ちになった案内板の設置を行っていききたいと考えており、逆向きになっている案内板は至急対処したい。

Q⑩ 観光開発の在り方についてだが、例えば舵引パンタは安全面や便利さを追求しコンパクトで固めた結果本来の

神秘性のようなものが失われてしまっている。歴史的な場所を観光開発する際は、何を残し何を開発するべきか百年後二百年後の姿を考えながら開発していく必要があるのではないか。

A 商工観光課長…開発することと自然を残すということとは非常に難しいところがある。今後、舵引パンタのような場所を開発する際は文化協会等と一緒に検討しながら進めていきたい。

Q⑪ 方言という切り口で観光をどう盛り立てていくか、与論が先進地となるような教育と観光が結びついた推進を各種団体と協力しながら取り組んでいきたい。

A 教育長…大事な文化遺産である方言を子どもたちが楽しく学んでいくために、カルタ大会、方言を使った格言の暗唱方言を取り入れた文化祭を開催し、生活に結びついた方言学習を推進している。

A 商工観光課長…観光振興にも方言を取り入れていきたいと思う。

Q⑫ 景観は大切な観光資源であるが、与論町には景観条例はあるか。

A 商工観光課長…景観条例に従って行っているところである。

Q⑬ 鹿兒島にオレンジ鉄道があるが、開業以来の赤字と聞いた。この赤字を県下の町村に負担しなさいということになっているようだが与論町も負担するのか。

A 町長…鹿兒島県内の町村会、市長会、市町村の議長会等全部で支援するということが、与論町も支援するという方向性をもっているがまだ、決定はしていない。





第44回ヨロンサンゴ祭

「第44回ヨロンサンゴ祭」が8月24日に開催されました。16時15分よりパレードが行われ、論中・与論高校マーチングバンドを先頭に子供会、老人クラブ、地女連、舞弦鼓などが登場し銀座通りから会場入り口まで練り歩き多彩なパフォーマンスを披露。ステージでは子供連によるダンスやお楽しみ抽選会、のど自慢大会、フラダンス、キャッチ&リリースと舞弦鼓がコラボした迫力のあるパフォーマンスなどで会場を盛り上げてくれました！もちろん子供連達のヒーロー「サンゴファイターショー」も。そして花火大会ではサブライズ花火などもあり感動のフィナーレを飾りました。台風の影響により一日のみとなりましたが、今年も多くの方々にご協賛、ご協力を頂き無事開催することが出来ました。ご来場くださった皆さま、テナント関係の皆様、祭に関わった全ての皆様に、心よりお礼申し上げます！本当にありがとうございました。

そして毎年サンゴ祭を企画・運営している与論町連合青年団の皆さんお疲れさまでした。



今年のサンゴ祭は、8月9日・10日(旧盆)に合わせて開催する予定でしたが、台風11号・12号の影響により8月24日の一日開催となりました。サンゴ祭を楽しむに帰省された皆様には申し訳ありませんでしたが、一日開催のサンゴ祭も大変良かったとお声をたくさん頂きました。

当日は、例年より一時間早い午後4時からの開始となり、パレード参加者の皆様には炎天下のなか、吹奏楽やダンス・神輿・エイサーとサンゴ祭の始まりを盛り上げて頂きました。また、ステージの部ではフラダンスやエイサー、ライブ、ヒーローショーなど、見どころたくさんさんのステージイベントを催すことで祭を盛り上げる事ができました。特に、青年団(私事ですが)によるサンゴファイターショーは年々クオリティを向上させサンゴ祭の目玉イベントへ発展できていると満足しています。来年のサンゴ祭は、第45回と節目になる年です、サンゴ祭実行委員会一同より良い祭りを目指して楽しいイベントを企画していきます。

サンゴ祭を開催するにあたってご支援・ご協力いただきました関係諸機関の皆様ミッシークトートウガナシ。

サンゴ祭実行委員長 山口 政治





互いに永久的な友情のつながりを求めて「誠の心」 与論3小と東十条小学校



【うわーちたばーり 東十条駅での歓迎】

去る6月23日(月)から6月28日(土)の5泊6日、引率者6名と与論3小学校の5・6年生12名の計18名は、東京都北区立東十条小学校での体験学習を行うため、交流団を結成して与論空港を出発しました。

姉妹校協約の経緯

東十条小学校と与論3小学校とのそもそものつながりは、昭和44年4月に与論町那間出身の山下為吉先生が東十条小学校の校長として赴任されたことに始まり、昭和48年7月、東十条小学校のPTA役員10名が山下先生と共に与論を訪れ、島の美しい自然と人懐っこい民情に魅せられ、親の教育に打ち込む情熱と、高い教育水準に感

激した。「正にその時からであるといわれています。姉妹校協約の話が持ち上がったから7年の歳月をかけ、学関係者は元より、東京都北区や与論町の当局、東京与論会の役員など、数多くの方々のご努力により協約式が挙行されました。

東京都北区 東十条小学校

東京都北区は、東京23区の北部に位置し、東西2.9km、南北9.3kmと南北に細長い形状で、与論島の面積とほぼ同じ広さです。しかし、人口推計による人口は、33万7500人(与論町5200人)と与論島の人口の約65倍もあり、公立小学校の数は37校にもなります。

東十条小学校は、東京都北区東十条にある小学校です。校区の広さは、縦670m×横670mの正方形の面積にほぼ等しく、狭い校区でありながらも現在の全小児数は366名、与論3小学校の児童数を超える規模校です。教育目標は、誠を尽くす子、学び合う子、やさしい子、元気な子を目指しています。与論の先人が大切にしてきた「誠の心」の教育の良さを東十条小学校なりに具現化されたものと思われまします。

感動的な出迎え 与論を愛するおばさん方にも感動

交流団が羽田空港に着したのは、午後6時近くでした。やや疲れた気味の交流団を元気づけてくださったのは、到着ロビー出口で福田校長先生、佐藤持久氏、PTA会長・副会長さんの笑顔での出

迎えてくれた。交流団の不安を取り除く何よりの力になりました。しかし、浜松町から京浜東北線に乗り換えて味わったラッシュアワーは、子どもたちにとって日常ありえない状況でした。多すぎる人手も足も全く身動きできない混雑、無理やり動かされる自分の身体、無理やり動かされる自分の身体、都会の日常のひとこまをいきなり体験することになりました。午後7時30分ごろに東十条駅へ到着、改札口を出た北口には、市川副校長先生、先生方、PTA、ホムステイ受け入れ家族の出迎え、約50数名が「与論小那間小茶花小のみなさん、うわーちたばーり」の横断幕を手にして立っていました。平日の遅い時間にもかかわらず、多くの方々の出迎えに感動しました。

東十条小学校での体験学習を終えて

東十条4丁目町会会館に宿泊する児童と引率者は、近くの地蔵湯に出かけました。銭湯に入ると、与論の子どもたちに気付いた銭湯のおばさんが、子どもたちに親しく話しかけてきました。そして風呂上りにはアイスキャンディーのプレゼントがありました。翌日は、朝食をいただく食堂のおばさんにいつも来ていたような温かい言葉をかけていただいたりと、長年続々と与論と東十条の交流が地域の方々にも浸透していることを実感しました。

トットウガナシ エイサーで歓迎

歓迎集会は、体育館で行われました。東十条小学校児童の「トットウガナシ」の歌声が流れ始めると、与論の子どもたちは体育館中央の花のアーチをくぐりぬけて入

員会の子どもたちの手による感動的な演出でした。歓迎の4年生エイサー、福田校長先生のお話と引率者の紹介、町岡教育長の挨拶、奥陽平さんの挨拶、与論児童の自己紹介、歓迎の劇とクイズ、「よろんのかたち」全員合唱で終了しました。正門の迎えから与論の児童を迎える会の事前の諸準備や練習等を考えると、東十条小学校の先生方や子どもたちへの感謝の気持ちが湧いてきました。

今回の交流体験学習を通じて、東十条小学校の子どもたちや先生方、保護者や地域の皆様の素晴らしいさを実感することができました。また与論の誠の教育や美しい自然、そしてそこに住む与論の人々の良さを見つめ直す機会ともなりました。急激にグローバル化する変化の大きい時代ですが、互いに「誠の心」を求め続ける永久的な友情のつながりを深めていきたいものです。





NPO法人 奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」

「奄美若者サポートステーション」（厚生労働省認定事業）は、働くことや自立についてさまざまな悩みを抱える方に対して、就業的自立を目指した支援を行う事業です。

【対象】 15歳から39歳までの仕事に就いていない若者とそのご家族

【支援内容】

1. 相談（面談・電話・メール）

これまでの経験や興味のあること、得意なこと、要望等を伺い整理しながら、今後どういう方向に進んでいくか、自立に向けてのステップを一緒に考えていきます。キャリアコンサルタントの資格を持った相談員による専門的な個別面談も行っています。（要予約）

2. 職場見学・職場体験

さまざまな企業・施設への見学、農作業体験、ボランティア活動、セミナーの実施等多種多様な活動を通して働くことを身近にし、社会や人と関わることで自分自身の能力を向上させ、働くことへの意欲を高め、就職に向けた心構えや技能を身に付けます。

3. 家族へのサポート

ご本人様の就労や社会的自立についての個別面談を行います。また要望があれば、自宅への訪問を行いより身近な支援を行うことも可能です。

【開所時間】 月曜日～金曜日 午前9時～午後6時

※土日・祝祭日・年末年始は休み

【連絡先】 〒894-0036 奄美市名瀬長浜町23-25

NPO法人 奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」内2階

奄美若者サポートステーション、電話：0997-57-0770（FAX兼用）

メール：amami-saposute@polka.ocn.ne.jp

ホームページ：http://amami-saposute.sakura.ne.jp/



「サンキュー(3億9千万円)オータム!!秋の頂上へどうぞ。」

「オータムジャンボ宝くじ」が発売されます!

【発売計画額】 390億(13ユニット)

【発売期間】 9月20日(金)～10月11日(金)

【抽選日】 月20日(金)～10月11日(金)

【発売場所】 全国の宝くじ売り場

【当せん金】

等級	等せん金	本数	
		1ユニット	13ユニット
1等	3億3千万円	1本	13本
1等前後賞	3,000万円	2本	26本
1等組違賞	10万円	99本	1,287本
2等	1,000万円	10本	130本
3等	100万円	100本	1,300本
4等	3,000円	100,000本	1,300,000本
5等	300円	1,000,000本	13,000,000本
サンキューオータム賞	3万9千円	5,000本	65,000本

あなたに夢を。街に元気を。



※この宝くじの収益金は市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。





与論の食育だより

産業振興課

◆ 「与論の薬草体験教室」 紹介 ◆

平成26年8月2日に「与論の薬草体験教室」が開催されたので紹介します。

本町の薬草研究の第一人者である山悦子さんとともに島内をまわり薬草の探検をしました。探検先ではみなさん熱心に山悦子さんのお話をメモにとり、発見した薬草を写真に撮ったりしていました。



山悦子さん畑



山悦子さん庭



江が島 長命草紹介



オオイタビ紹介

探検から戻った後は調理実習をしました。調理実習では、食生活改善推進員さん、JA女性部さん、生活研究グループさんのご協力のもと、アワユキセンダン草のカレー、ミツバと長命草のサラダ、バジリコのパンケーキ、オオイタビ茶を作りました。子どもたちも進んで食材を切ったり、パンケーキを焼いたりと一生懸命でした。

調理実習後の試食では、料理の感想や薬草探検などについての会話が聞こえとても賑やかでした。



調理実習



調理実習



できあがった料理



試食風景

＝薬草レシピ紹介＝

アワユキセンダン草のパンケーキ

材料

- ・ホットケーキの素 (180g)・・・1袋
- ・砂糖・・・大さじ2杯
- ・卵・・・1個
- ・油・・・大さじ1-2杯
- ・水・・・100cc
- ・アワユキセンダン草・・・10g

作り方

- ① 水にアワユキセンダン草を入れ、ミキサーにかける。
- ② ①に卵、砂糖を加えよく混ぜ合わせた後にホットケーキの素を入れて混ぜる。
- ③ フライパンを煙がでるまで熱したら、油を入れ②を焼く。
(3-5分たったらひっくり返し、3分たったら取り上げる)

与論島名は「サシ」と呼ばれ、糖尿病、動脈硬化、アトピー、高脂血症、血中コレステロール除去に効果があります。

【問い合わせ先】

与論町食育推進計画作業部会事務局
町産業振興課 担当：加藤



平成 26年度 見つめよう郷土の自然 移動博物館事業

— 博物館がやってきた! in 与論島 —

1 移動博物館とは?

ご来館いただいた方々に与論島や鹿児島全域の自然への理解を深めていただこうと、県立博物館と与論町教育委員会が連携して、動物・昆虫・植物・岩石等、約 6000点の展示物を与論町中央公民館に展示します。また美しい星空の観察会や多様な与論島の自然に関する観察会や、各学校と連携した教育普及活動を実施します。これにより、自然への興味・関心を高め、自然のすばらしさを知っていただこうと考えています。

2 主催及び後援

主催：県立博物館、与論町教育委員会
後援：与論町

3 期間

平成 26年 11月 20日 (木) ~11月 24日 (月)
[5日間]

4 入場料 無料

5 会場

- ・展示 [20日(木)~24日(月)] [与論町中央公民館]
 - ・楽しい実験 [20日(木)~23日(日)] [与論町中央公民館]
 - ・星空観察会 [21日(金)・22日(土)] [与論町サザンクロスセンター]
- ※雨天の場合は室内で天文教室等を実施



博物館がやってきた! in 沖永良部島
開会式。平成 25年 11月実施



迫力あるクマタカの剥製



めずらしい世界の蝶の標本



星空観望会

現在、みなさんが驚くような標本、剥製を準備中です。

たくさんの方のご来館をお待ちしております。



鹿児島県立博物館

バンブー竹のユヌ今昔

《古里 竹 盛産》

パンチキヤママ

「与論でヤマシギを食べる習慣がありますか？」との電話問い合わせに、「無いと思うよ」と答えてくれと女房に返事した。一瞬、今年の冬にトラツグミが屋敷に居ついていたことを思い出した。これまでお目にかかれなかった渡り鳥である。数年前、史跡ガイドをしてもらったという女性の言うことには、近所に住んでいる与論島出身のかたが、昔ヤマシギを食べたという。食文化の話なのかと思つて、電話口を代わった。「シロハラは食べたことがあったので、ヤマシギだったら鳩よりも大きいから食べごたえもあったらう。スズメも食べたから」と答えた。顔は思い出せなかったが与論にまつわる楽しい会話になつて、案内したお客様から電話がもらへたことに感激したのがつい最近ことである。

ユムドイ（すずめ）が居なくなったのは何時ごろからだろうか。調べて書いてみようと思つていたら、「パンチキヤママ」のことを思い出した。鳥を捕まえる農のことであるが「パンチキヤママ」のことを共通語ではなつて言うのだろう。主にキジバトを捕るための罠である。パンチキとは弾ける意味。絵が描けないので仕掛けを作つて写真を載せることにする。

この頃は鳥を捕まえるのも遊びのひとつだった。冬の季節を知らせるターシグレ（サシバの渡り）から始まつて、次々と冬鳥が渡ってくる。シロハラやヤマシギ、そしてメジロたちも夏が来るまでの間とどまつてくれるのである。

私の家では秋に収穫したソテツの赤い実をサタヤ（旧製糖小屋）の近くに積んでおいた。そのソテツの実の赤い皮は毒があると言われていて、秋から冬にかけて皮が腐れて柔らかくなつた頃を見計らつてメジロや鷺が食べにやってくる。パンチキヤママをしかけて、シロハラを狙うかたわら、メジロをターゲットにしたのがソイヤマ

であつた。ザル（ソイ）をうつぶせに棒をたてかけて、鳥たちが餌を食べに入つたところを引つ張り倒して抑え込む罠である。のぞき穴から鳥たちが入るのを待つているソクソク感が堪らない。

ソイは大中小と使い分けたが、時には大切なバラというのを使った。たいてい2〜3匹はいつたら仕掛けの紐を引つ張つたが、鷺を捕るためにはメジロをたくさん集めなければならぬ。鷺は用心深くなかなか罠のソイの中には近づかないのであるがメジロにつられてやってくるまで痺れを切らして待つていると、欲しくもないヒヨドリがやつて来てメジロを追い散らかしてしまふ。鷺もメジロも採れないこともしばしばで、悔しいおもいをするのだ。

伏せて閉じ込めたソイから獲物を取り出すには着物の上着をかけ、袖を伝つて手をさしいれつつかみだすのだが、脇からにげられることもしばしばだつた。メジロやシロハラよりもつ



と邪魔をしてくれたものが厄介な人間、しかも父や母の農作業だった。こうなつたら、あきらめて藪の中に仕掛けたスーヤマを見回り行く。スーヤマはシロハラ専用の罠だった。餌はミミズだったが仕掛けや作り方が難しかったし、一つしか持つてなかつたので父に作つてもらつたのだろう。今は仕掛けをかける術を思い出せない。

久しぶりにババゲーノとババゲーナ（魔笛）でも聴いてみよう。渡り鳥たちの中にはこの鳥で子孫を残していくものもある。

エリグロアジサシが今宮巣しているが、いつまでも生き物にやさしい環境の島であり続けたい。



◆益山政喜久さん「旭日星光章」を受章

与論町朝戸の益山政喜久さん（元瀬戸内町立久慈小・中学校長）が、永年に渡り公務に携わった功績が評価され、高齢者叙勲「瑞宝双光章」を受賞されました。



益山氏は、昭和19年鹿児島県立農事試験場大島分場を始めとして、昭和60年、瀬戸内町立久慈小・中学校を退職されるまでの41年間の永きに渡り鹿児島県とりわけ大島郡内の教育振興・発展に貢献されました。教職員時代は、生来の誠実な人柄とたゆまぬ研究・実践によって培った指導力で教育にあたり多くの人材を輩出するとともに教

育環境の整備に尽力し、児童生徒はもとより教職員や地域住民の尊敬と信頼を一身に集めるなど、正に教育者の模範とした本県教育に大きく貢献されました。

昭和30年代から40年代にかけては、地方の新卒者が都会の企業に集団就職するようになり、与論島からも毎年のようにほぼすべての卒業生が集団就職を余儀なくされました。そのような中、昭和34年から昭和43年まで与論中学校教諭として、集団就職者の引率を行い生徒・保護者の安心安全及び経済的負担の軽減に努め、その間も就職生の職場訪問を実施するなど、高度経済成長期の産業経済、日本社会へ大きな貢献をされました。退職後は、4年間教育委員・教育委員長として、豊富な教育経験と卓越した指導力を発揮し、本町教育の発展に貢献されました。

▲今月の表紙 金星と木星のランデブー

撮影・原田 誠一郎

曇り空を予測した晩、食事を済ませ、外に出てみると、満点の星。いまささら遠出する気になれず、庭先のサルスベリの下にカメラを設定。蚊の羽音に苛立ちながら天の川を収めた。

戸籍の窓

8月

※婚姻、出生、死亡とも差越え期間を頂いた方のみを掲載しています。（敬称略）
お誕生おめでとうございます

（氏名・保護者・地区）

7月届出分

岩山	蒼空	勝志	茶花
裾分	愛奈	龍男	茶花
西	海慶	健治	立長
池畑	悠迅	行彦	立長
池田	愛椰	良武	城
森	想華	光広	茶花
山下	朝輝	和博	東区

8月届出分

先	美慈	秀和	古里
楠元	咲和	慎一	茶花
山本	はづき	修司	茶花

（四月生まれ）



ひとの動き（平成26年8月末現在）
人口5,432人（男2,636人・女2,797人）●2,509世帯

7・8月分 ●出生 10人 ●転入 29人
●死亡 12人 ●転出 19人



（氏名・享年・地区）

7月届出分

重	富信	91歳	立長
有馬	玄直	101歳	茶花
裾分	水康江	72歳	茶花
鶴木	福富	64歳	東区
片岡	先富	83歳	東区
光	一	59歳	立長

8月届出分

重	静子	71歳	茶花
瀧	玉宮見	92歳	東区
村山	福栄	98歳	那間
池田	佳壽子	98歳	茶花
重村	慶一	81歳	茶花
金井	忠満	51歳	茶花

Happy Wedding



7月届出分

町本 陽 那間 茶花
福本 朋子 那間 茶花

8月届出分

竹下 則博 那間 茶花
山岡 彩 那間 茶花

（氏名・地区）





広報 よろん

2014. 9 VOL. 299

本物。鹿児島県文化維新は黒潮に乗って

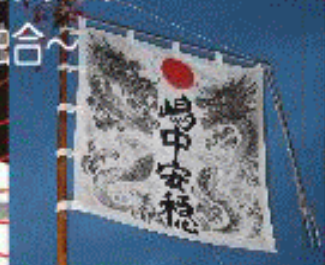
第30回国民文化祭・かごしま2015

与論十五夜踊研究の最前線

～狂言『末広がり』と与論十五夜踊の融合～



与論十五夜踊・一番組「三者囃子」



狂言『末広がり』

大和風、琉球風の文化交流の歴史を偲ばせる非常に珍しい芸能で、国の重要無形民俗文化財に指定されている与論十五夜踊。この十五夜踊で一番組が演じている『三者囃子』が、狂言踊『末広がり』に由来することから、京都大藏流狂言師茂山千五郎一門をお迎えし披露していただき、これらを全国に発信し、未来に向け次代に引き継ぐ祭典とします。



日時：平成27年10月31日（土）
11月1日（日）

会場：与論町砂美地来館

第30回国民文化祭 与論町実行委員会

<http://www.yoron.jp/>



発行：与論町：編集総務企画課
〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町米花32-1
TEL: 0997-97-3111 FAX: 0997-97-4197
WEB: <http://www.yoron.jp> E-Mail: yo-kouhou@yoron.jp